

人生で何冊の本が読めるのか。 人生を変える本に何冊出会えるのか。

この夏、圧倒的な読書体験をしよう。平安堂スタッフがおすすめする厳選100冊。

小説

【名作】

氷壁

井上靖

新潮社／¥990

切れるはずのないナイロンザイルが切れ、同行した親友が墜死する!友情と恋愛の確執を、山と都会とに照らし合わせて描いた傑作。

芋虫

江戸川乱歩

KADOKAWA／¥572

人間の後ろ暗い感情を生々しく描いた表題作が特に印象的。目を背けたくなる情景が多いのに、読まずにはいられない怪奇傑作集。

人生について

小林秀雄

中央公論新社／¥990

近代批評の創始者であり、確立者でもある小林秀雄。人生に真摯に向き合い、徹底的に思考を重ねた文章はドキリとするほど力強い。

こころ

夏目漱石

集英社／¥440

「先生」が過去の悲劇により自殺への沼に引きずり込まれていく様がとても痛ましい。人間の本質を考えさせられる作品。

八甲田山死の彷徨

新田次郎

新潮社／¥737

日露戦争直前の雪中行軍演習。

199名死亡の大遭難を招く神田隊と、210余キロ完全踏破の徳島隊。対比の中で描く追真の人間ドラマ!

なりそこない王子

星新一

新潮社／¥649

星新一のブラックユーモアが効きすぎて、これはもはやホラーなのでは?数ページのショートショートに満足感がたまらない。

銀河鉄道の夜

宮沢賢治

KADOKAWA／¥484

読めば何度でも、あのうつくしい銀河へ「ジョバンニとカムパネルラの旅」に出たくなることでしょ。角砂糖入りの牛乳を片手に。

思い出トランプ

向田邦子

新潮社／¥605

誰の日常にもひそむ弱さや狡猾さ。それらを内に秘め生活する人々を巧妙に描く向田ワールド。優しく温かくあなたを包み込みます。

文豪ナビ 川端康成

新潮文庫／編

新潮社／¥473

この日本人初のノーベル賞作家は勿論知っている。だが全く読んでいない、もしくは忘れた!そんな人のための、気楽で手軽な一冊。

【現代文学】

鎌倉うずまき案内所

青山美智子

宝島社／¥825

平成を6年ごとに遡り、人生の迷子を出口に導く謎の双子のおじさん。6編のどこかに必ず自分に似た人が見つかる「救い」の一冊。

平場の月

朝倉かすみ

光文社／¥748

私にとって「ちょうどいい位の幸せ」とは?終わりの始まりが見えてくる五十代。今出会えて良かったと思える一冊です。

沙高樓綺譚

浅田次郎

文藝春秋／¥737

日本さっての語り部に誘われた一夜限りの秘密の物語。精緻でとても心に沁みます。眠れない夜にひっそりと読みたい一冊。

図書館戦争

有川浩

KADOKAWA／¥734

「メディア良化法」とは悪法か正論か。表現の自由をめぐる闘争は現実感充分。キャラクターの魅力にグレイ引き込まれる。

非色

有吉佐和子

河出書房新社／¥990

人は色に非ず。人種差別と偏見に苦しみながらも懸命に生き、闘い続けた明るい主人公に幸あれ!!渾身の傑作長編。

あちらにいる鬼

井上荒野

朝日新聞出版／¥825

父と母、瀬戸内寂聴をモデルに、娘が描く三角関係。正妻と愛人の濃とした姿に敬服し、男のズルさや弱さにクッとする。

今はちょっと、 ついてないだけ

伊吹有喜

光文社／¥682

かつて自然写真家だった立花と、シェアハウスに集まる人々の挫折と再生を優しく描く。千曲市でも撮影された同名映画の原作。

死にたくなったら

電話して

李龍徳

河出書房新社／¥935

「死にたくなったら電話して」一女のメッセージは希望の言葉か、絶望への誘惑か。やがて男は女に、そして破滅へと墮ちていく。

流しのしたの骨

江國香織

新潮社／¥649

柔らかな空気感のなか、淡々と過ぎる家族の日常。主人公の「平らかな心」に触れたくて、何度でも読み返したくなる。

姑の遺品整理は、 迷惑です

垣谷美雨

双葉社／¥715

義両親や実親のこと、自分のこと…考えさせられる。物や人と関わり合うことが人生。ならば断捨離ばかりではちょっと寂しいかな。

持たざる者

金原ひとみ

集英社／¥616

3.11と福島原発事故に起因する喪失を描く群像劇。コロナ禍で失ったものは何か、と考えながら読んでしまう。

百花

川村元氣

文藝春秋／¥803

失うことは大人になるということ。記憶を失いつつある母、思い起こす息子。切ないストーリーの中の、母の温かさが心に沁みる。

とんび

重松清

KADOKAWA／¥704

こんなにも不器用でまっすぐでどうしようもなく愛おしい父親はきっといる。だからこの国はまだ大丈夫。読めばきっと暖かくなる。

図書館の神様

瀬尾まいこ

筑摩書房／¥550

赴任先の高校で思いがけず文芸部の顧問に。一人だけの部員と図書館での部活。それは彼女の傷ついた心を再生する第一歩だった。

嘘みあわない会話と、 ある過去について

辻村深月

講談社／¥704

かつて交わした些細な会話が生む人間関係の歪み。自分の過去の言動を振り返りゾッとさせられる。さてあなたは大丈夫ですか?

銃

中村文則

河出書房新社／¥594

遠くに感じるだけだった世界が、目の前に現実として現れた!果たしてあなたは傍観者でいられるだろうか?

わたしの美しい庭

風良ゆう

ポプラ社／¥814

縁切り神社が屋上にあるマンションに集う様々な人たち。なにかを抱えながらも懸命に生きていく姿に胸が熱くなります。

三千円の使いかた

原田ひ香

中央公論新社／¥770

年金・老後・奨学金。誰もが一度は考える問題がリアルに山盛り。今、自分の生き方に無駄がないか、考えさせられた。

暗幕のゲルニカ

原田マハ

新潮社／¥880

この世界情勢の中で私たちにできる事のひとつがこの本を読むこと

だ。ゲルニカに託された思いが多くの人に広がる事を願いながら。

鹿男あをによし

万城目学

幻冬舎／¥755

舞台は奈良の学校。この喜劇はさながら現代版『坊ちゃん』だ。退屈しないいや退屈できない展開に一気読みできてしまう。

未來

湊かなえ

双葉社／¥858

この物語は、いま実際に起きている子どもたちの社会問題でもある。叫びたくなるほど辛い現実にも明るい未来はあるのか。

熱帯

森見登美彦

文藝春秋／¥1,034

結末まで読めないまま行方不明になる謎の本『熱帯』。自分の立つ場所すら揺らぐ中、貴方は結末に辿りつけるでしょうか…?

ミステリー

medium

霊媒探偵城塚翡翠

相沢沙呼

講談社／¥990

死者と交信する霊媒の力で事件を解決!マジシャンの顔を持つ著者ならではの大作掛けが炸裂!特殊設定ミステリーの傑作です!

むかしむかしあるところに、 死体がありました。

青柳碧人

双葉社／¥704

お馴染みの昔話をモチーフにした本格派ミステリー。昔話の舞台で起きるトリックは驚きの連続。めでたしめでたしは終われない!

〈完本〉初ものがり

宮部みゆき

PHP研究所／¥838

宮部ワールド全開の江戸人情捕物帳というだけでも面白いけれど、そこに美味しい料理が加わると、大・大満足の一冊の出来上がり。

昭和23年冬の暗号

猪瀬直樹

中央公論新社／¥814

昭和23年12月23日、東条英機らA級戦犯が処刑された。GHQはなぜこの日を選んだのか?そこには日本に突き付けられた暗号があった。

収容所(ラーゲリ)から来た遺書

辺見じゅん

文藝春秋／¥715

シベリア留置中、俳句を通じ皆を勇気づけた山本幡男。その遺書を仲間たちが分担して暗記、帰国後遺族に伝えた、感動の実話。

出口のない海

横山秀夫

講談社／¥770

第二次世界大戦下、青年は自ら人間魚雷となる決意をする。戦争という状況下で死と直面したとき、「命」をどう捉えるのか。

エヴァの震える朝

エヴァ・シュロス

朝日新聞出版／¥1,078

戦後40年の沈黙を破って、アンネの義姉が語る真実。アウシュヴィツの苛烈さ、そして解放、帰国。アンネの日記の続きの物語。



ウルトラセブンが

「音楽」を教えてくれた

青山通

新潮社／¥572

筆者が多様なクラシック曲からたった一曲を採すなかで、音楽の楽しさを知っていく。その過程を描いたドキュメント。

生き物の死にざま

稲垣栄洋

草思社／¥825

生き物はみな、最後のその時まで生きている。ただそれだけの話と侮るなかれ。感動と悲哀に満ちた命の物語がここにある。

エンジェルフライト

国際霊柩送還士

佐々涼子

集英社／¥682

不幸にも海外から「遺体」で戻らざるを得なくなった時、家族へ送り届ける仕事。死に対するあり方を見つめる。

無人島に生きる十六人

須川邦彦

新潮社／¥572

明治時代、実際に起こった漂流物語。アザラシは友達!?亀は牛ステーキの味!果たして船員は無事に日本に帰れるのだろうか?

サカナとヤクザ

鈴木智彦

小学館／¥979

海に囲まれた船上に法の目は届かず、水産業界はタブーだらけ。体当たり取材で暴かれる、サカナをめぐる地下経済の実態とは?!

辺境の怪書、歴史の驚書、ハードボイルド読書合戦

高野秀行 清水克行

集英社／¥704

辺境探検家と歴史家がディープな本について語り尽くす。プロ視点の

考察で本の魅力が倍增。好奇心を煽る多量の注釈も一興。

思考の整理学

外山滋比古

筑摩書房／¥572

学校で知識を獲得するという受け身の姿勢ではなく、自ら考え学ぶことの楽しさを教えてくれる一冊。

すごい言い訳!

中川越

新潮社／¥693

ニュース等で色々な言い訳を聞くが、文豪たちの言い訳は一筋縄ではいかない。先生!難しく表現していますが子どもの言い訳です。

働かないアリに

意義がある

長谷川英祐

山と溪谷社／¥935

アリの巣を観察するとほとんど働かないアリがいる。なぜなのか?社会性生物の驚きの生態から、人が学ぶべきことは?

廃道探索 山さ行がねが

平沼義之

実業之日本社／¥924

安曇野市三郷から上高地を目指した三郷スカイライン計画とは?日本で唯一のプロ廃道探索家による現地探索レポート8本を収録。

本土の間人は知らないが、沖縄の人はみんな

知っていること

矢部宏治

筑摩書房／¥990

本当に知らないことばかり。でも、確実に「知っておかなければならない事実」ばかり。沖縄返還50周年にぜひ読んでおきたい本。

ひとはなぜ

戦争をするのか

アルバート・アインシュタイン

ジグムント・フロイト

講談社／¥660

アインシュタインとフロイトという二人の知見をしても、明確な答えはない。養老孟司氏、斎藤環氏の解説も読み応えアリ。

ヒルビリー・エレジー

J・D・ヴァンス

光文社／¥1,320

分断は一日にしてならず。アメリカの現実はそのまま世界の写し鏡になる。当事者による貴重かつ秀逸なルポルタージュ。

21 Lessons

ユヴァル・ノア・ハラリ

河出書房新社／¥1,320

2017年の時点でロシアのウクライナ侵攻を予言。「人類の愚かさを過小評価してはならない」と解く、若き知の巨人の21の提言。

戦争プロバガンダ

10の法則

アンヌ・モレリ

草思社／¥880

「我々は戦争をしたくない」「敵側が一方向的に戦争を望んだ」といった10のプロバガンダが並ぶ。正に今、必読の一冊。



四角形の歴史

赤瀬川原平

筑摩書房／¥748

人間はどうやって四角形を見つけたのか。犬も風景を見るのだろうか。風景画の歴史を辿りながら独自目線で見つめる四角形の誕生を考える。

いい女、ふだんブツ散らかしており

阿川佐和子

中央公論新社／¥792

「いい女、ふだんブツ散らかしており」「いい男、金と力はなかりけり」。ユーモア満載、時々ほろりの痛快正直エッセイ集。

くいいじ

安野モヨコ

文藝春秋／¥748

映画でこぼれが残されるシーンすら、その後が気になってしまう著者の喰い意地エッセイ。菜食な夫、庵野秀明監督も登場!

沖縄文化論

忘れられた日本

岡本太郎

中央公論新社／¥755

返還50年の今年、沖縄の文化・歴史を知るのに最適な一冊。岡本氏の独特な感性で表現されており大変美しい。

生きるとか死ぬとか

父親とか

ジェーン・スー

新潮社／¥605

20代で母を亡くし、「母の人生について何も知らない」ことを後悔した著者が、破天荒な父親と向き合い新たな関係を築く物語。

老いてこそ上機嫌

田辺聖子

文藝春秋／¥748

「老い」に対して覚悟ができていないブレ世代の私にとって、大先輩の言葉は指針のひとつになりました。

ききがたり

ときをためる暮らし

つばた英子

つばたしゅういち

文藝春秋／¥814

それぞれ好きなことをして、互いに干渉しない。しかしお互いを思いやることで生かされている。丁寧な暮らしをお手本にしたい。

一汁一菜で

よいという提案

土井善晴

新潮社／¥935

「台所に立つ人を楽にしたい、お料理を作るのが大変と感じている人に読んで欲しい」と土井善晴氏の言葉が響く。さあ原点へ!

じじばばのるつぼ

群ようこ

新潮社／¥605

発売から話題沸騰の爆笑&共感エッセイ!群ようこさんの切れ味するどい観察眼で描かれる「じじばばあるある」に思わずクスリ。

表参道のセレブ犬とかバーニヤ要塞の野良犬

若林正恭

文藝春秋／¥792

日本とは社会システムが異なるキューバで、長年抱いていたモヤモヤが晴れていく痛快旅エッセイ。モンゴル、アイスランドの旅も。

悲しみの秘義

若松英輔

文藝春秋／¥803

「誰かを愛しむことは、いつも悲しみを育てることになる。」今「悲しみ」の中にある人をはじめ、多くの人に手に取ってほしい本。

旅の絵日記

和田誠 平野レミ

中央公論新社／¥902

レミさん(時々子どもたち)の日記に、和田誠さんの絵。食事の記録が多いのもレミさんらしい。こんなゆっくりな旅、良いな。

寄りかからず

茨木のり子

筑摩書房／¥638

とても穏やかな文体なのに節々に見られる強い意志。今の時代にとてもまぶしく映る。そこが今なお読み継がれる理由だろう。

〈完本〉初ものがり

宮部みゆき

PHP研究所／¥838

宮部ワールド全開の江戸人情捕物帳というだけでも面白いけれど、そこに美味しい料理が加わると、大・大満足の一冊の出来上がり。

昭和23年冬の暗号

猪瀬直樹

中央公論新社／¥814

昭和23年12月23日、東条英機らA級戦犯が処刑された。GHQはなぜこの日を選んだのか?そこには日本に突き付けられた暗号があった。

収容所(ラーゲリ)から来た遺書

辺見じゅん

文藝春秋／¥715

シベリア留置中、俳句を通じ皆を勇気づけた山本幡男。その遺書を仲間たちが分担して暗記、帰国後遺族に伝えた、感動の実話。

出口のない海

横山秀夫

講談社／¥770

第二次世界大戦下、青年は自ら人間魚雷となる決意をする。戦争という状況下で死と直面したとき、「命」をどう捉えるのか。

エヴァの震える朝

エヴァ・シュロス

朝日新聞出版／¥1,078

戦後40年の沈黙を破って、アンネの義姉が語る真実。アウシュヴィツの苛烈さ、そして解放、帰国。アンネの日記の続きの物語。



ウルトラセブンが

「音楽」を教えてくれた

青山通

新潮社／¥572

筆者が多様なクラシック曲からたった一曲を採すなかで、音楽の楽しさを知っていく。その過程を描いたドキュメント。

生き物の死にざま

稲垣栄洋

草思社／¥825

生き物はみな、最後のその時まで生きている。ただそれだけの話と侮るなかれ。感動と悲哀に満ちた命の物語がここにある。

エンジェルフライト

国際霊柩送還士

佐々涼子

集英社／¥682

不幸にも海外から「遺体」で戻らざるを得なくなった時、家族へ送り届ける仕事。死に対するあり方を見つめる。

無人島に生きる十六人

須川邦彦

新潮社／¥572

明治時代、実際に起こった漂流物語。アザラシは友達!?亀は牛ステーキの味!果たして船員は無事に日本に帰れるのだろうか?

サカナとヤクザ

鈴木智彦

小学館／¥979

海に囲まれた船上に法の目は届かず、水産業界はタブーだらけ。体当たり取材で暴かれる、サカナをめぐる地下経済の実態とは?!

辺境の怪書、歴史の驚書、ハードボイルド読書合戦

高野秀行 清水克行

集英社／¥704

辺境探検家と歴史家がディープな本について語り尽くす。プロ視点の

考察で本の魅力が倍増。好奇心を煽る多量の注釈も一興。

思考の整理学

外山滋比古

筑摩書房／¥572

学校で知識を獲得するという受け身の姿勢ではなく、自ら考え学ぶことの楽しさを教えてくれる一冊。

すごい言い訳!

中川越

新潮社／¥693

ニュース等で色々な言い訳を聞くが、文豪たちの言い訳は一筋縄ではいかない。先生!難しく表現していますが子どもの言い訳です。

働かないアリに

意義がある

長谷川英祐

山と溪谷社／¥935

アリの巣を観察するとほとんど働かないアリがいる。なぜなのか?社会性生物の驚きの生態から、人が学ぶべきことは?

廃道探索 山さ行がねが

平沼義之

実業之日本社／¥924

安曇野市三郷から上高地を目指した三郷スカイライン計画とは?日本で唯一のプロ廃道探索家による現地探索レポート8本を収録。

本土の間人は知らないが、沖縄の人はみんな

知っていること

矢部宏治

筑摩書房／¥990

本当に知らないことばかり。でも、確実に「知っておかなければならない事実」ばかり。沖縄返還50周年にぜひ読んでおきたい本。

ひとはなぜ

戦争をするのか

アルバート・アインシュタイン

ジグムント・フロイト

講談社／¥660

アインシュタインとフロイトという二人の知見をしても、明確な答えはない。養老孟司氏、斎藤環氏の解説も読み応えアリ。

ヒルビリー・エレジー

J・D・ヴァンス

光文社／¥1,320

分断は一日にしてならず。アメリカの現実はそのまま世界の写し鏡になる。当事者による貴重かつ秀逸なルポルタージュ。

21 Lessons

ユヴァル・ノア・ハラリ

河出書房新社／¥1,320

2017年の時点でロシアのウクライナ侵攻を予言。「人類の愚かさを過小評価してはならない」と解く、若き知の巨人の21の提言。

戦争プロバガンダ

10の法則

アンヌ・モレリ

草思社／¥880

「我々は戦争をしたくない」「敵側が一方向的に戦争を望んだ」といった10のプロバガンダが並ぶ。正に今、必読の一冊。



四角形の歴史

赤瀬川原平

筑摩書房／¥748

人間はどうやって四角形を見つけたのか。犬も風景を見るのだろうか。風景画の歴史を辿りながら独自目線で見つめよう。

いい女、ふだんブツ散らかしており

阿川佐和子

中央公論新社／¥792

「いい女、ふだんブツ散らかしており」「いい男、金と力はなかりけり」。ユーモア満載、時々ほろりの痛快正直エッセイ集。

くいいじ

安野モヨコ

文藝春秋／¥748

映画でこぼれ残されるシーンすら、その後が気になってしまう著者の喰い意地エッセイ。菜食な夫、庵野秀明監督も登場!

沖縄文化論

忘れられた日本

岡本太郎

中央公論新社／¥755

返還50年の今年、沖縄の文化・歴史を知るのに最適な一冊。岡本氏の独特な感性で表現されており大変美しい。

生きるとか死ぬとか

父親とか

ジェーン・スー

新潮社／¥605

20代で母を亡くし、「母の人生について何も知らない」ことを後悔した著者が、破天荒な父親と向き合い新たな関係を築く物語。

老いてこそ上機嫌

田辺聖子

文藝春秋／¥748

「老い」に対して覚悟ができていないブレ世代の私にとって、大先輩の言葉は指針のひとつになりました。

ききがたり

ときをためる暮らし

つばた英子

つばたしゅういち

文藝春秋／¥814

それぞれ好きなことをして、互いに干渉しない。しかしお互いを思いやることで生かされている。丁寧な暮らしをお手本にしたい。

一汁一菜で

よいという提案

土井善晴

新潮社／¥935

「台所に立つ人を楽にしたい、お料理を作るのが大変と感じている人に読んで欲しい」と土井善晴氏の言葉が響く。さあ原点へ!

じじばばのるつぼ

群ようこ

新潮社／¥605

発売から話題沸騰の爆笑&共感エッセイ!群ようこさんの切れ味するどい観察眼で描かれる「じじばばあるある」に思わずクスリ。

表参道のセレブ犬とかバーニヤ要塞の野良犬

若林正恭

文藝春秋／¥792

日本とは社会システムが異なるキューバで、長年抱いていたモヤモヤが晴れていく痛快旅エッセイ。モンゴル、アイスランドの旅も。

悲しみの秘義

若松英輔

文藝春秋／¥803

「誰かを愛しむことは、いつも悲しみを育てることになる。」今「悲しみ」の中にある人をはじめ、多くの人に手に取ってほしい本。

旅の絵日記

和田誠 平野レミ

中央公論新社／¥902

レミさん(時々子どもたち)の日記に、和田誠さんの絵。食事の記録が多いのもレミさんらしい。こんなゆっくりな旅、良いな。

寄りかからず

茨木のり子

筑摩書房／¥638

とても穏やかな文体なのに節々に見られる強い意志。今の時代にとてもまぶしく映る。そこが今なお読み継がれる理由だろう。